

令和4年9月3日

令和4年度東海大学対抗テニスリーグ戦第一部における審判について

令和4年度東海大学対抗テニスリーグ戦第一部における審判を以下のように変更いたします。

中立校から審判を出すものとする。→セルフジャッジで行う

変更に至った理由といたしまして、審判要請していた複数の大学から、新型コロナウイルスの影響で派遣できないとの連絡をいただき、審判を十分な人数集めることが出来ない状況になったことです。また、相互審判についても検討いたしましたが、人数が少ない大学もあり、直前のことで人を集めることが難しいと判断したため、相互審判についても行わないことといたしました。直前の変更になり、申し訳ありませんがご理解の程よろしく願います。

また、例年団体戦ということもあり、試合に熱が入り、ジャッジについてもめる場面が多く見受けられます。そのため、プレーする選手の方は、必ずJTAが定めるセルフジャッジ5原則に則ったジャッジをお願いいたします。

- ① 判定が難しい場合は「グッド」
- ② 「アウト」または「フォールト」はボールとラインの間に、**はっきりと空間**が見えたとき
- ③ サーバーはサーブを打つ前、**レシーバーに聞こえる声**でスコアをアナウンス
- ④ ジャッジコールは、**相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナル**を使って速やかに
- ⑤ コートの外の方は、セルフジャッジへの**口出しはしない**

引用：「テニス競技でのセルフジャッジ5原則の順守と推進のお願い」、公益財団法人日本テニス協会、<https://www.jta-tennis.or.jp/LinkClick.aspx?fileticket=klJDmHek3X8%3D&tabid=547&mid=2330>

プレーをする選手はもちろん、応援する方もスポーツマンシップに則ったフェアな試合が行われるようご協力お願いいたします。

セルフジャッジは、JTAルールブックのp203~p205の「セルフジャッジの方法」に従います。

以下に抜粋しておりますので、こちらも入場する選手全員確認するようお願いいたします。

<セルフジャッジの方法> 「J T A テニスルールブック 2022」より抜粋

プレーヤー・チームが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下のとおり行なう。

1. サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
2. ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定できなかった時は「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。
3. 判定とコールは、相手にはっきりとわかる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」、「フォールト」を示し、手の平を地面に向けて「グッド」を示す。
4. ダブルスの判定とコールは、1人の選手が行なえば成立する。しかし、ペアの両選手の判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレーヤーが直ちに「グッド」に訂正した場合は、1回目に限り故意ではない妨害としてポイントレットとなる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット(グッド)」とコールした場合は「(サービスの)レット」となる。
5. インプレー中、他コートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。
6. インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目のときは、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。レットのコールは、落とし物をしたプレーヤー・チームがコールすることはできない。相手プレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコールできる。ただし、落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
7. スコアがわからなくなった時は、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなったときも、同様に処理する。再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない(同じプレーヤーが2ゲーム連続サーバーになれない)
8. 次の場合は、レフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。

- A) 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時
 - B) 相手プレイヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
 - C) プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時
9. メディカルアウトを取りたい場合は、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。
10. 各判定とコールをする権利者は以下の通りとする
- A) 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレイヤー・チームのいずれかがコールでき。その判定が成立する。
 - B) 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレイヤー・チームのいずれかがコールできその判定が成立する。
 - C) 「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー。ロービングアンパイアのいずれか
11. オーバールール
「イン」「アウト」のオーバールールは巡回しているレフェリー、ロービングアンパイアのいずれかが行える
12. 妨害によるレットのコール
コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレイヤー・チームができる。対戦相手による無意識の妨害（落とし物1回目を含む）は妨害を受けたプレイヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する
13. 誤ったコールを訂正した場合
印だったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール（ミスジャッジ）をしたとしても「グッド」に訂正した場合は、1回目は校出ない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレイヤー・チームの失点となる。そして、2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
14. 対戦相手からの故意の妨害
「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレイヤー・チームからの申し込みにより。レフェリー、ロービングアンパイアが判断する。ただし、妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。